

読んでみたい この一冊

大阪産業経済リサーチセンター
主任研究員

竹原康幸



『魔法のコンパス 道なき道の歩き方』

●西野亮廣 著 株式会社主婦と生活社 1,389円+税

著者略歴をご覧になり、当欄としては異質な印象を持たれた方もおられるかと思います。評者も、日経ビジネスオンラインで、「常識」からかけ離れた意見を口にする事で“炎上”することの多い) 筆者の考え方を取り上げた記事¹を読まなければ、この本に巡り合っていなかったと思います。

この記事での「向かい風のある方が、無風状態よりも良い」というコメント、インターネット上での絵本制作に関する批判コメントをリツイートして販売サイトのURLを貼り付け、その日だけで数百冊の販売につながるなど、柔軟かつ斬新な思考、対応を示すエピソードに関心を持ち、ビジネスに活かせる点が多いのでは…と買い求めたのが、今回取り上げる本です。

著者は、いわゆる“芸人”ですが、プロとして10点を60点にしたところで需要はなく、70点を120点に伸ばせるところに注力すべきと考え、自分の勝てる分野に特化し、テレビの“ひな壇”に並ばない、うそをつく可能性があるからグルメ番組に出ないなど、ポリシーを持ち活動しています。また、距離の離れたいくつかの点でプロとなることで仕事や信頼の幅が広がるとの視点から、「お笑い」のみならず、絵本制作やイベント企画、学校や街づくりなど、様々な活動をしています。いわゆる“選択と集中”を見事にこなしています。

本書では、4章立てで43のテーマを取り上げています。内容的には、テレビ番組の演出に関するものもありますが、企画、資金調達等に関するものも多く、幅広い内容となっています。

例えば、大きな問題となっていた渋谷でのハロウィンパーティー後のゴミ問題では、ゴミがないと成立しないイベント（ゴミ拾いイベントとともに、そのゴミを素材としたアート作品制作）の開催という解決策を企画、実行しています。しかも、“アンチ西野”派がイベントを邪魔すべく、イベント前にゴミを拾うという、結果として著者を手助けするような現象も起きたそうです。

信用の積み重ねがクラウドファンディングでの資金調達を容易にするというテーマでは、1日50

円で様々な依頼を請け負う（実際には、50円では…と、昼食、夕食等も提供する人が多いようですが）人が、企画の度にクラウドファンディングでの資金調達を試みると、それまでに仕事を依頼してきた人々から多くの支援が集まったとの事例を紹介しています。また、著者自身も、個展開催時にお客さんの様々な要望に無償で対応した後、絵本の制作費を集めるクラウドファンディングを立ち上げ、個展に来た多くの人から、ラスト3時間で300万円を集めたとのことでした。

5千部売れたらヒットと言われる絵本の制作に際しても、（通常よりもコストアップとなる部分を）クラウドファンディングで得た資金でカバーして、クラウドソーシングで集めたクリエイター35名による完全分業体制で“世界の誰も見たことがない”絵本作りに取り組み、また、既存サイトでは発売の3ヶ月前からしか予約できないことから、予約サイトも自ら作り、3ヶ月前には1800冊の予約を得るなど、常識にとらわれず取り組んでいます。そうしてできあがった『えんとつ町のプペル』は、販売冊数27万部を突破しています。

このほか、絵本の販売では、無料開催する原画展の“おみやげ”と位置づけて、購入する必要性、動機を高め、数千冊の販売につながっています。

インターネットの活用では、「多くの人に一齐にアプローチする拡散装置としては寿命を迎えている」として、検索をかけ、関心を持ちそうな人一人ひとりに直接メッセージを送るという工夫を凝らした手法で、クラウドファンディングの支援やニューヨークで開催した個展への集客につながっています。

このように、著者の優れたビジネスセンスがたくさん詰まっているこの本の一読をお勧めします。

【著者略歴】

1999年、梶原雄太氏とお笑いコンビ「キングコング」結成。絵本作家として4冊の絵本を執筆。渋谷のごみ問題の娯楽化を提案するなどイベントターとしても活躍。一方、バラエティ番組の「ひな壇」に出演しないことを宣言するなど、数々の率直な物言いから「炎上芸人」と呼ばれる（日経ビジネスオンラインでの紹介文より）。

1 謝罪の流儀 2016 『炎上上等！キングコング西野氏に学ぶ危機管理 「向かい風も風は風。無風の方がヤバイ」』
URL:<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/report/16/120900091/121300004/>